

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2870800964		
法人名	株式会社 ジョイ		
事業所名	グループホーム ハッピージョイ		
所在地	神戸市垂水区桃山台7丁目5-10		
自己評価作成日	平成30年5月22日	評価結果市町村受理日	平成30年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">http://www.wam.go.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	平成30年6月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成30年8月に開設15年を迎える。開設当初にご入居された利用者は重度化されてきているが、当施設でのご入居を継続できるように、主治医の往診以外にも精神科・眼科・皮膚科・歯科・耳鼻咽喉科等に往診に来て頂けるように体制を整えている。介護職員への身体的負担を軽減するために、特殊浴槽を導入している。  
敷地内の庭の一角に畑を作り、夏野菜、さつまいも、大根等季節の野菜作りを行っている。水やりや収穫は、利用者にも手伝って頂き、日々の成長を楽しんでいる。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

【優れている点】本年度開設15年を迎え、“住み慣れた場所で最後まで”をモットーに培った地域との連携や医療連携体制の構築、職員身体負担軽減への諸施策(特殊浴槽、車いす用体重計、介護リフト導入等)と共に、内外環境変化に対応して地域共生のもとサービスの質向上への仕組みを整備、推進し、当事業所の存在性を高めている。【工夫点】日常生活が全てリハビリテーションと考え、住む人の気持ちを大切に“わが家”のような家族ケア方針のもと、敷地内及び共通フロアを地域行事等にも活用し、また畑整備による季節野菜作り、地域ボランティア活用による散歩外出支援など利用者の参加による楽しみや自立への工夫を推進している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の元で可能な限り自立に向けて個別ケアを行う。 終末ケアまで受け入れる事を基本方針としている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念に基づき“わが家”のように住む人の気持ちを大切に、日常生活をリハビリテーションに繋げ家族的なケアを目指した自立への個別ケアを実践し、終末ケアまで受け入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方との散歩や交流 自治会の行事(公園掃除、盆踊り)などの参加 トライアルウィークの受け入れ	自治会員として公園掃除、盆踊り等自治会行事に積極的に参加し、地域のボランティアによる散歩支援や近隣中学のトライアルウィーク受入れ等地域の一員として日常的な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方への対応についての質問に具体的な支援方法をお答えしている。 地域ケア会議等への参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での活動や取り組み等の報告、地域との関わり方困っていることや要望等を議題に挙げて意見やアイデアを頂いている。	桃山台あんしんすこやかセンター、自治会、同業施設等定例メンバーに加え、ご家族、入居者の順次参加を得て、活動や取り組み報告や地域課題や身体拘束等適正化対策検討委員会状況報告等を挙げ意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	神戸市主催の研修などに参加。 垂水区グループホーム連絡会に時々参加。 神戸市介護保険課の担当の方と情報交換。	運営推進会議メンバーのあんしんすこやかセンター以外に神戸市主催の研修会参加や垂水区グループホーム連絡会、必要に応じての神戸市介護保険課担当との情報交換を行い協力関係を築く取組を推進している。	市介護保険課担当と連絡時、サービス質向上効果のトピックス等さりげない情報提供の工夫やチャレンジが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に該当するかを廊下や更衣室に掲示している。 毎年1回は身体拘束について職員研修を行い身体拘束排除に向けて取り組んでいる。	廊下や更衣室に身体拘束に関するマニュアルを掲示し、研修計画に基づき職員研修実施により正しい理解に努め身体拘束排除に向けて取り組んでいる。玄関施錠は立地環境よりの安全性より職員による開錠方式を採用している。	当該研修後の継続的な正しい理解等の有効性確認の工夫・実践(ex.チェックリスト活用)が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待についての職員研修を行っている。月1回の職員会議で職員間で注意を払い防止するようにしている。	年度研修計画に基づき高齢者虐待についての職員研修を実践し、月1回の職員会議で関連情報に関し意見交換を行い事前防止に努めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について職員会議で研修している。 制度を活用されている方も数名入居されている。	年度研修計画に基づき権利擁護に関する制度の重要ポイントを職員会議で学び理解を深めている。また金銭管理等日常生活自立支援事業を活用している数名の入居利用者への支援を行っている。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、契約内容の説明をし、納得して頂いた上で利用契約を行っている。 契約後の疑問等にもその都度説明している。	入居契約書等契約時に必要資料に基づき契約内容の説明を行い、当施設の特徴でもある医療連携や看取りに関する指針の説明を行い利用者や家族等の不安に対し理解・納得を図っている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、納涼祭、敬老会などの行事に参加された時や面会に来られた時又は電話等でも意見や要望をお聞きし、繁栄している。	玄関に投書箱設置、家族会、納涼祭、敬老会参加時や電話連絡時等による利用者、家族の意見、要望を聴き、フロア会議、職員会議や年4回の“たより”発行し、これらを運営に反映させている。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々相談や提案を聞き、月に一度行われる職員会議で検討し意見を反映している。	管理者は運営に関する相談や提案を月1回開催の職員会議で検討し、入浴時間の利用者要望に沿って就業時間の調整、特殊浴槽や車いす用体重計、介護用リフト導入など職員意見を反映している。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のコミュニケーションとチームワークを大切にし何でも話し合える環境を作っている。特殊浴槽や車椅子用体重計、介護用リフトを導入し介護者の負担を軽減している。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やその他の研修に参加したり、介護指導を行っている。 研修で学んだ事を報告し、話し合いをしている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区グループホーム連絡会に参加し、他施設の良い面を取り入れサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時面談時に入所についての説明や要望の聞き取りを行っている。入所後は、出来るだけ早く馴染んで頂けるように常に声掛けし、不安を取り除いて頂けるよう心掛けている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談時に家族の希望、要望の聞き取りを行っている。入所後も要望、希望の聞き取りを継続している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	諸事情によりすぐにも入所したいとの希望の方の受入れにも対応し、特養入所待ちをされている方の受入れも行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スーパーへの買い出し、食器洗いなど職員と一緒に言ったり色々な昔の話をしてくださり職員も勉強させて頂く事もある。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭、敬老会のイベント時に、家族様がボランティアをして下さる。 職員と一緒にたこ焼きなどを作り、ご本人家族と一緒に召し上がって頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に友人、知人の方にも来所して頂いたり、敬老会では家族様をお招きし、昼食会を行っている。	今までの生活の延長線上であるように、地域で暮らす知人や友人に会ったり、訪問してもらう等つながりが継続できるよう働きかけている。年1回敬老会では本人を取巻く関係をとても大切にしたい支援に努め食事会等を開催している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝利用者全員でラジオ体操を行い、音楽療法や合同レクで交流を深めて頂く機会を設けている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後ハガキや電話で近況を、知らせて下さる家族様もいる。 又退所後もその家族様がボランティアで来所して頂いている。		

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人と色々お話しさせて頂くようにし、利用者様の意思を尊重するように援助している。	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。今までの暮らしや一人ひとりの思いや意向を本人本位の視点に立って話し合うことを大切に取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人から情報を頂き全職員が把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活する中での表情、行動、言動など細かく観察し、把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、家族、関係者等での話し合いやモニタリング、フロア会議等で意見を出し合って作成している。	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。家族会やアンケートを活用し意見・要望を反映した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録や業務日誌を記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや散髪などの訪問。内科だけでなく精神科、眼科、歯科など必要がある場合は、往診に来て頂ける体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桃山台自治会の行事の公園掃除やつつじが丘自治会の行事の盆踊り等に参加したり、ボランティアの方との散歩など本人の力を引き出せるように支援している。		

自己 者三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診を希望されたり往診を希望される方は、入所後も引き続き利用して頂けるように支援している。又24時間対応の医療も受けられる体制をとっている。	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人のいままでのかかりつけ医や希望の病院を受診している。24時間対応内科医との連携し夜間急変時の指示判断がなされ適切な医療を受ける体制が整備されている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化がある時は、すぐに看護師に報告し介護職や看護師から主治医や訪問看護へ病状報告を行っている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成し病院へ渡している。退院前には、病院へ行き病棟ナースや担当相談員と情報交換を行い退院後の受入れ体制をとっている。	入院時には、本人のストレスや負担を軽減するため支援方法に関する情報を医療機関に提供。ケア拒否や入れ歯の出し入れのポイント等なるべく混乱が少ないよう詳細な状況を伝えている。地域ケア会議や事例検討会に参加し医師や医療従事者と顔の見える関係構築に努めている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設においての理念が、「最後の住居」であるように職員はターミナルケアを意識的に共有している。24時間対応による医療の体制を整えている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる。看取りの経験を積み重ねている。その取り組みや支援方法を踏まえ話し合いを行い、事業所としてできることを十分話し合いながら体制を整えている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し実践している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消防訓練を実施している。	年度職員研修計画の基づき年2回防災訓練・避難訓練を実施している。避難訓練では地域ボランティアの協力を得て毎回消化想定場所を変え適切な避難方法への取組を実践。備蓄は1週間分食料を2階所定場所に保管管理している。	

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉かけや対応をし、プライバシーは厳守している。	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけている。自己決定しやすい言葉がけに努め本人を傷つけてしまわないように職員間では利用者の誇りを傷つけないよう言葉の内容や語調等に工夫や配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも利用者自身で出来る事や選択は、本人の思いが気持ちに添えるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて過ごして頂いている。レクリエーションなど利用者様のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度理容師に来て頂いている。ご自分の化粧道具で化粧されている方もいる。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後に下膳して頂いたり、テーブル拭きなど手伝ってくださる。ホットケーキ作りやタコ焼きなど職員と一緒に作って楽しまれている。	食事が楽しみなものになるよう、食事の準備や後片付けなど利用者個々の力を活かしながら職員が利用者と共にしている。食事が楽しむために食事会など開催し食事への関心が高まるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は記録している。特に水分摂取量には注意している。利用者様の租借、嚥下状態に合わせて刻んだり、ペースト状にしたり工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合ったトイレ誘導をしている。状態に合わせて、布パンツ・紙パンツ・テープ止めオムツなど使用して頂いている。	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に感知し、身体機能に応じて手を差し伸べ、排泄表を使用し、誘導している。トイレでの排泄を大切に二人介助で対応しスムーズな排泄につながるように丁寧に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便確認し、看護師と相談しながら便秘予防と対応を行っている。散歩、体操、水分量に気を付けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の意思、タイミングに出来る限り対応し、入浴して頂いている。柚子湯、菖蒲湯など取り入れている。炭酸泉をとりいれている。	その日の希望を確認し、職員が一方向的に決めず週3回は入っていただいている。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせ無理強いせず、ゆっくり浸かりたい人など順番をずらすなど工夫している。炭酸泉は血流を良くし体調改善に繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じて、お昼寝をして頂いたり、夜間は安心して入眠して頂けるよう職員が寄り添い声掛けするように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師に確認。受診往診後にこれまでの処方と変動がある場合は、ファイルを確認している。服薬時職員間で声出し確認を行い誤薬に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった時間楽しみ方をして頂けるよう支援している。おやつなど個々の好みをお聞きし、希望に添えるよう注意している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員やボランティアと一緒に近所を散歩したり、家族様との外出も楽しまれている。	一人ひとりの状態や習慣、希望に合わせて近隣の散歩やスーパーへの買い物など戸外へ出る事を積極的に行なっている。週1回月曜日は、散歩会5から6名のボランティアの協力で散歩に出かけます。車椅子の活用など本人に合わせた移動の配慮をし支援している。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつの買い出しに職員と一緒に頂いている。スーパーのレジで代金の支払いをして頂いたり、好きなおやつを選んで頂いたりしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを利用者様から家族様に書いて頂いている。書けない方も職員が手を添えて一緒に書いて頂くようにしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、季節に合わせた作品や花など飾っている。壁画などは、利用者様と職員と一緒に作り楽しんで頂いている。	利用者が多くの時間を過ごす共有空間がお年寄りにとって懐かしく感じたり、使いやすい物を選んで置いている。個々の利用者が居心地良く安心感のある落ち着いた雰囲気壁画は職員と一緒に作った折り紙の作品など季節感を大切に工夫が活きている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席など利用者様がお好きな場所で自由に過ごして頂けるようなスペースを作っている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた布団、タンスや装飾品などを持ち込まれている。	寝具やタンスなどそれぞれの利用者の居心地の良さを配慮し本人が落ち着いて過ごせるため温かい雰囲気をかもし出すように工夫をしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、車椅子の方でもエレベーターを利用し、他の階へも行けるようになっている。		